# 世界知的所有権機関

# 国際事務局



# 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(51) 国際特許分類6 B01D 3/32

(11) 国際公開番号

W096/28232

A1

(43) 国際公開日

1996年9月19日(19.09.96)

(21) 国際出願番号

PCT/JP95/00428

(22) 国際出願日

1995年3月15日(15.03.95)

(71) 出願人 (米国を除くすべての指定国について) 株式会社 日立製作所(HITACHI, LTD.)[JP/JP]

〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 Tokyo, (JP)

(72) 発明者;および

(75) 発明者/出願人(米国についてのみ)

原田 進(HARADA, Susumu)[JP/JP]

〒744 山口県下松市東陽2丁目27-10 Yamaguchi, (JP)

吉松幸祥(YOSHIMATSU, Satihiro)[JP/JP]

〒743-01 山口県熊毛郡大和町塩田248-7 Yamaguchi, (JP)

染矢和夫(SOMEYA, Kazuo)[JP/JP]

〒744 山口県下松市濮岡5丁目2番2-201号 Yamaguchi, (JP)

岡本成恭(OKAMOTO, Naruyasu)[JP/JP]

〒744 山口県下松市大字末武中33-69 Yamaguchi, (JP)

(74) 代理人

弁理士 小川勝男(OGAWA, Katsuo) 〒100 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号 株式会社 日立製作所内 Tokyo, (JP)

(81) 指定国

CN, JP, KR, US, 欧州特許(AT, BE, CH, DE, DK, ES, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE).

添付公開書類

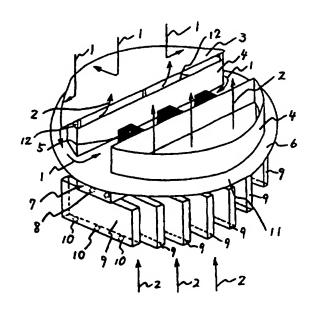
国際調查報告書

(54) Title: DEVICE AND METHOD FOR DISTRIBUTING LIQUID

## (54) 発明の名称 液体分配装置および方法

#### (57) Abstract

A liquid distribution device is provided which can improve the dispersion of liquid therein when installed m a filling tower, is of small size and make smaller a filling tower where air and liquid are brought into contact with each other and an air separation device. A liquid receiving plate is provided for receiving liquid flowing down from above for temporarily collecting at the liquid receiving plate. Liquid flowing down from the liquid receiving plate is led to a peripheral edge portion of a circular liquid receiving plate and then to the central portion thereof from the peripheral edge portion via a buffer box so as to sale portion tries are the peripheral sedge portion via a buffer box so as to be collected at a first liquid distribution box provided at the central portion of the circular liquid plate. A phendity of second liquid distribution boxes each having a number of holes formed in a better nearly of the comment of the collection of the colle an a bottom portion thereof are pro-vided below the first liquid distribu-tion box, whereby liquid collected in the first liquid distribution box is then the bottom portions of the second liq-uid distribution boxes, thereby making it possible not only to improve the dis-pension of liquid but also to provide a smaller liquid distribution device.



(57) 要約

充填塔内に設けられる液体分配装置の液体の分散性を向上させるとと もに、小形な液体分配装置を提供し、さらには気液接触を行う充填塔の 小形化、空気分離装置の小形化を図ることができる液体分配装置を提供 する。

上方から流下する液体を受け止める液受板を設け、流下して来た液体 は一旦液受板に捕集する。液受板から流下した液体を円形の液受皿の外 周禄部に導き、外周縁部から緩衝箱を介して液受皿の中央部に導き、液 受皿の中央部に設けられた第1の液分配箱に捕集する。多数の孔を底部 に有する第2の液分配箱を第1の液分配箱の下方に複数設け、第1の液 分配箱に捕集された液体を第2の液分配箱の底部に設けられた多数の孔 より放出することにより、液体の分散性を向上させるとともに、小形な 液体分配装置を提供できる。

情報としての用途のみ PCTに基づいて公開される国際出版をパンフレット第一頁にPCT加盟国を同定するために使用されるコード

ポーランド ポルトガル ルーマニア アルバニア アルメニア オーストラリア オーストラリア オーストラリテン アゼルバイへ ボバルボー ベルギナナア ベナン ベナン リヒテンシュタイン セントルシア スリランカ リベリア PPRRSSSSSSSST DKES IRABE LLLLLLLLU MMGK AL AM AT AU ルロススシススセスチトクトトトウウアウヴーシーウンロロネワヤージルルリクガメズィーアダエガヴヴガジドゴキクコニランリベェーデーニキ ン タニ 一十 合スナース アルアア ド ンス ド 衆タムンルアア ド ンス ド 衆タム ンルアア ド ンス ド 衆タム ソルアア ド ンス ド ペイダカキト コン タ・ 国ン タ・ コン ロシア連邦 レソト リルトアニア リルトマンア ラトウィア ラトナッド 共和国 マグケイリンプカル ユーゴスラ マグケイリンプル BBBBBBBBBCCCCCCCC GGGHIIIII JKKKP ノルオリア イナシル ブラジル ベナゲ 中央アフリカ共和国 コンプ TG J TM TR TT ML MN MR モンゴル モーリタニア モマサイコーダー MX NE NO NO NO UGS UUS VN スイスコート・ジボアール カメルー:中国 ラールウェー ニュー・ジーランド

BNSDOCID: <WO\_

\_9628232A1\_I\_> :和国

## 明細書

#### 液体分配装置および方法

## 技術分野

本発明は充填物を内蔵した充填塔用の液体分配装置および方法に関し、 5 特に、充填塔に適用されたときその塔高さを減少させるのに好適な液体 分配装置および方法に関するものである。

## 背景技術

10

15

20

蒸留塔の充填塔内に配設される従来の液体分配装置に関しては特開平 5-184804号公報に記載されているように、充填物と充填物の間に上部充填物より落下してくる液体を捕集するコレクタ、コレクタで集めた液体を集合する集合配管、およびこの集合配管の下端で連通して充填塔の塔断面に一様に配設される多数の孔を有する分散管を設ける構造が一般的で、液のヘッドを利用して液体を均一に分散させるようになっている。あるいは特公平6-77683号公報に記載されているように分散管の代りに略矩形のオリフィス式のトラフを用いたものも知られている。さらには特開平6-285323号公報に記載されているように、充填塔の高さを低く抑えるために液を捕集するコレクタと液分配箱が一体化されたのも提案されている。

しかしながら、上記液体分配装置の従来技術は充填塔内に設置された場合に充填塔の高さを低減する構造に関して十分なものではなかった。 あるいは小型化が達成されていても、液体を均一に分配する方法に関して十分なものではなかった。

例えば充填塔内の規則充填物の性能を十分に引き出すためには、初期

10

15

20

に均一な液分散を行うことが不可欠である。これを達成するためには、 充填物の種類にもよるが、塔断面積 1 平方メートル当りに数百個の流下 点を設けた液体分配装置が提案されている。しかし下降液は充填物を通 過中に偏流が生じるのを避けられないため、徐々に単位体積当りの有効 な気液接触面積が小さくなり、精留効率が低下する。そこで、従来の充 填塔では、気液接触用充填物の連続した充填高さをある範囲に区切り、 充填物と充填物の間にコレクタ(集液装置)と再び液を分散させるため の液体分配装置が設置さていた。一方、従来のコレクタと液分配装置の 充填塔内への設置は充填塔の高さに対してかなりな不利益を生じさせる。 すなわちコレクタと液分配装置のために必要な空間を充填塔内に確保さ せねばならず、充填塔の高さを不要に高くする原因となっていた。工業 的規模の充填塔ではコレクタと液分配装置の設置のための空間の高さは 約2メートル必要である。

本発明の第1の目的は液体の分散性を向上させるとともに、小形な液体分配装置および方法を提供するにある。

本発明の第2の目的は、充填塔の小形化ひいては空気分離装置の小形化を図ることができる液体分配装置および方法を提供するにある。

## 発明の開示

上記第1の目的は、上方から流下する液体を受け止める液受板を設け、液受板から流下した液体を気体が上昇するための開口を設けた堰板を有する円形の液受皿に導き、液受皿に設けた液体が流下する開口部を介して第1の液分配箱に導き、第1の液分配箱の下方に設けられた多数の孔を底部に有する第2の液分配箱を複数具備することによって達成される。液受皿の開口部、第1の液分配箱,第2の液分配箱の液体流入部分に多

孔板あるいは金網等から成る緩衝板を設けることによって液体の均一分散性が向上される。さらに、好ましくは円形の液受皿の外周に液体が導かれるように液受板が傾斜されており、円形の液受皿に設けた関口部が中央に設けられ、関口部の両側に複数の堰板が設けられることが望ましい。

また、第2の目的は、液体の分散性の良い小形な液体分配装置を充填 塔あるいは空気分離装置の複式精留塔の下塔,上塔及びアルゴン塔に設 けることにより達成される。

上記構成によれば、流下して来た液体は一旦液受板に捕集され、次に 10 円形の液受皿に流下する。一方、液受板は液体が液受皿の外周に導かれ るように傾斜している。従って液体は液受皿の比較的長い距離の外周を 旋回しながら穏やかな液勾配を形成した後に、液受皿の中央に設けた開 口部に流入する。この開口部に多孔板、あるいは金網の緩衝板を設ける と、オリフィス効果によりさらに均一な流速で第1の液分配箱に流入す 15 る。次に開口部から流入した液体は第1の液分配箱で適当な液ヘッドを 保持する。さらに液体は第1の液分配箱の下端に適当に設けられた孔か ら均一に、複数の第2の液分配箱に流入し適当な液ヘッドを保持しなが ら、底部に設けた複数の孔から充填物に均一な液流量で流下する。第1 の液分配箱、第2の液分配箱の入口部分に前述したような緩衝板を設け 20 るとさらに均一な液流量を達成できる。一方、本発明による液体分配装 置および方法では、液受板,液受皿,第1の液分配型箱及び第2の液分 配箱が一体となっているので、液体分配装置の高さを低くすることがで きる。従って、本発明の形態の液体分配装置では従来例の装置の欠点を 回避でき、液体の分散性を向上させるとともに、小形な液体分配装置を 25 提供できる。その結果、充填物を内蔵した充填塔の小形化を行うことが

10

15

20

4

できる。

空気分離装置は原料空気を高圧塔と低圧塔から成る複式精留塔及びアルゴン塔により、窒素、酸素及びアルゴンの沸点差を利用して精留分離を行う。従来、精留塔には棚段を用いていたが、理論段当りの圧力損失が小さい構造化された充填物(規則充填物)に置き代えることにより、精留塔での圧力損失を低減できることが知られている。しかしながら充填物の連続充填高さの制限から、コレクタと液体分配装置を所々に設置する必要があり、精留塔の高さ自体を不必要に大きくしていた。本発明による液体分配装置および方法を空気分離装置の精留塔に設けることにより、精留塔あるいは空気分離装置の小形化を行うことが可能となる。

#### 図面の簡単な説明

第1図は本発明による液体分配装置の一実施例を示す構造図である。 第2図は第1図に示す液体分配装置の部分的な縦断面図である。第3図 は本発明による液体分配装置の他の実施例を示す便宜的な縦断面図であ る。第4図は本発明による液体分配装置の他の実施例を示す便宜的な縦 断面図である。第5図は本発明による液体分配装置の他の実施例を示す 便宜的な縦断面図である。第6図は本発明による液体分配装置の他の実 施例を示す構造図である。第7図は第6図に示す液体分配装置の他の実 施分配装置を示す側面図である。第8図は第2の液分配装置の他の例を 示す平面図である。第9図は第1の液分配装置の一例を示す構造図であ る。第10図は本発明による液体分配装置が適用された空気分離装置の 一実施例を示すフロー図である。

発明を実施するための最良の形態

以下本発明を図面とともに説明する。

第1図に本発明による液体分配装置の一実施例を示す。本液体分配装 置11は気液接触用充填塔内に、すなわち、蒸留,吸収等を行う充填塔 内に設けられ、上下に充填物が設置されている状態で用いられる。液受 5 板3(片側しか示していない)は上部の充填物から下降してくる液体1 を捕集し、液受皿6に液体1を導く役目を果たす。円形の液受皿6には 略三日月状の2つの堰板4が設けられており、液受皿6は充填塔の内壁 に溶接等により固定されている。液受皿6に導かれた液体1はある液へ ッドを保ちながら、堰板4の外周面に沿って流れ、液受皿6の中央に設 10 けられた緩衝板から成る矩形の緩衝箱5を介して長方形の第1の液分配 箱7に流入する。緩衝箱5は多孔板あるいは金網等から構成され、流入 する液体の乱れを整流し、第1の液分配箱7に流入する液流量を一定に 保つための一種の抵抗体として作用する。緩衝箱5から流入して来た液 体1は第1の液分配箱7である液ヘッドを維持しながら、底部に設けら 15 れた複数の孔8から充填塔の塔断面に対して所定の間隔を保って設けら れた複数の第2の液分配箱9に分流される。第2の液分配箱9には分配 箱の下方に設けられた多数の孔10が形成され、適当な液へッドを有し ながら、均一な液分散を行うことができる構造となっている。一方、下 方の充填物から上昇して来た気体2は第2の液分配箱9の間隙を通り、 20 堰板4の空間を通って、上昇する。本実施例では液受板3を便宜上片側 しか示していないが、実際の装置では2つ液受板が必要である。すなわ ち、気体2は堰板4と液受板3の間の空間12を通って上昇する。第2 図には第1図で示した液体分配装置の部分的な断面面を示す。液体分配 装置11は上下に難して配置された2個の充填物20の間に設けられて 25 おり、液受皿6は充填塔21の塔壁に溶接等により固定されている。ま

10

15

20

25

た、液受板3は上部の充填物20からの液が直接下部の充填物にショートパスしないように堰板4に空間12を設けて固定されている。なお、液受板3の投影面積は堰板4の開口面積より若干大きくすることが必要である。

従って、本実施例によれば、流下して来た液体1は一旦液受板に捕集 され、次に円形の液受皿3に流下する。次に液体1は比較的長い距離の 外周を旋回しながら穏やかな液勾配を形成した後に、液受皿の中央に設 けた開口部に流入する。この開口部に多孔板、あるいは金網等からなる 緩衝箱5を設けると、オリフィス効果により均一な流速で第1の液分配 箱7に流入する。緩衝箱5から流入した液体は第1の液分配箱7で適当 な液ヘッドを保持する。さらに液体は第1の液分配箱7の下端に適当に 設けられた孔から均一に、複数の第2の液分配箱9に流入し適当な液へ ッドを保持しながら、底部に設けた複数の孔から充填物20に均一な液 流量で流下する。一方、この実施例に示された液体分配装置11は液受 板3.液受皿6,第1の液分配箱7及び第2の液分配箱9が一体となっ. ているので、液体分配装置の高さを低くすることができる。工業的な規 模における液体分配装置11の高さは約1mである。従って、本実施例 の液体分配装置11では従来例の装置の欠点を回避でき、液体の分散性 を向上させるとともに、小形な液体分配装置を提供できる効果がある。 その結果、充填物を内蔵した充填塔の小形化が達成できる効果がある。

第3図に本発明の他の実施例を示す。第2図と同一符号のものの説明は省略する。本実施例では充填物20から流下して来た液体1は傾斜した液受板3に捕集され、液体1の大部分は傾斜板3に沿って流れ、一旦液受皿6の外周に集められる。その後、液体1は液受皿6の比較的長い距離の外周を堰板4に沿って流れる。この距離が存在するために、液へ

10

15

ッドは穏やかなものになり、液受皿6の中央に設けた緩衝板から成る矩形の緩衝箱5を介して第1の液分配箱7に流入する。緩衝箱5は流入する液体の乱れを整流し、第1の液分配箱7に流入する液流量を一定に保つための一種の抵抗体である。なお、緩衝箱5は充填塔の塔内径が大きい場合には、複数設置した方が第1の液分配箱のヘッドがより均一になる。

従って、本実施例によれば前述の効果を加えて、液受皿上で液体をより長い距離で旋回させることができるので、第1の液分配箱と第2の液分配箱の液ヘッドより均一にできる効果があり、液体の分散性をさらに向上できる効果がある。

第4図に本発明の他の実施例を示す。第2図と同一符号のものの説明は省略する。本実施例では充填物20から流下して来た液体1は傾斜した液受板3にすべて捕集され、液体1は傾斜板3に沿って流れ、一旦液受皿6の外周に集められ、液体1は液受皿6の比較的長い距離の外周を堰板4に沿って流れる。従って本実施例では充填物20から流下する液体1は直接緩衝箱5に流入して、第1の液分配箱7の液へッドを乱すことがない。本実施例によれば前述の効果に加えて、第1の液分配箱と第2の液分配箱の液へッドをより均一にできる効果があり、液体の分散性をさらに向上できる効果がある。

20 第5図に本発明の他の実施例を示す。第4図と同一符号のものの説明は省略する。本実施例では第1の液分配箱7,第2の液分配箱9のそれぞれ液体が流入する部分に多孔板あるいは金網から成る緩衝板30,3 1を設けてある。緩衝板30,31は前述した緩衝箱5と同じ動作、すなわちオリフィス作用により液体の流量を均一にする役目を果たす。緩 25 衝箱5より流入してきた液体1は緩衝板30で液の乱れを整流され、第

10

15

20

25

1の液分配箱7の液ヘッドを一定に保つ。次に第1の液分配箱7に設けた孔から流下した液体はさらに緩衝板31で液の乱れを整流され、第2の液分配箱9の液ヘッドを一定に保たれる。従って、本実施例によれば上記効果に加えて、第2の液体分配箱の液ヘッドをより均一に保つことができる効果があり、液の分散性をより向上できる効果がある。

第6図に本発明による液体分配装置の他の実施例を示す。今まで述べてきた液体分配装置は比較的液量が多い場合に適した構造であったが、本実施例の場合は特に液量が少ない場合に適している。すなわち、液量が少ない場合には、液受皿6の上に保持される液ヘッドが小さく、液の乱れも小さい。このため、今まで説明してきた第2の液分配箱に必要とされてきた液ヘッドは不要となり、第1の液分配箱7の液ヘッドだけで、複数のチューブ40に設けた多数の孔10により均一に液体を分布することが可能となる。なお、第1図と同一符号のものの説明は省略した。従って、本実施例によれば容易な構造で液体の分散性を良好にする効果があり、より液体分配装置の高さを低くできる。その結果、充填物を用いた充填塔の小形化が達成できる効果がある。

第7図と第8図に液分配箱の実施例を示す。第7図は第1の液分配箱7と第2の液分配箱41の便宜的な側面図、第8図は下方、液体が流下する方から見た便宜的な平面図である。本実施例では第2の液分配箱が環状となっており、第2の液分配箱50の底部には多数の孔が設けられている。第1の液分配箱は今までの実施例と同様に底部に孔8が設けられている。液体の流動方式は同様であるが充填物の直径が大きい所で、多数の孔10を設けることが構造上可能である。このことは充填物の断面積当りの流下点の密度を均一できることを意味しており、充填物の性能を十分に引き出すために有利である。従って本実施例によれば、上述

した効果とともに、液体分配装置の高さを低くできる効果がある。なお、 図示していないが、液受板、液受皿等の構成は本発明の実施例と同じも のを組合せることが可能である。

第9図に本発明の他の液分配箱の実施例を示す。第2の液分配箱は多数の孔10を有した矩形であるが、第1の液分配箱60は2つの開口を有する環状の液分配箱から構成されている。本実施例の場合、矩形の第1の液分配箱に比較して容積を大きくできる。すなわち、同じ液量の液体分配装置では、第1の液分配箱の高さaを小さくすることが可能となる。また、構造上第2の液分配箱9の中央部だけでなく外側にも第1の液分配箱60からの液を流下させることができる。従って本実施例によれば、第2の液分配箱の液ヘッドをより良好に保つ効果があるとともに、より高さの低い液体分配装置を提供できる。なお、図では省略したが、液受板、液受皿等の構成は本発明の実施例と同じものを組合せることができる。

本発明による液分配装置を空気分離装置へ適用した場合の一実施例を第10図に示す。空気分離装置の典型的なシステムとして低圧塔、高圧塔及び粗アルゴン塔の三塔蒸留システムを例にとる。圧縮、浄化及び冷却された原料空気43は複式精留塔の下部に位置した高圧塔22の底部に導入される。高圧塔22内を上昇したガスは熱交換器23において凝縮され、塔内の遷流液となる。最上部より液体窒素46、中間段より不純液体窒素45、底部より酸素に富んだ液体空気44が別途設けられた過冷却器を経て上部の低圧塔24に送られる。液体空気の一部は47より途中分岐され、50を通して粗アルゴン塔の凝縮器26に送られる。複式精留塔の上部に設置された低圧塔24の還流液として液体窒素49、不純液体窒素48及び液体空気51が高圧塔22より別途設けられた過

25

15

20

冷却器を経て導入される。原料空気の一部を押出してターピンに送られ た空気は冷却されて52を通して、粗アルゴン塔の凝縮器26において 蒸発した空気56と共に低圧塔24に導入される。低圧塔24内を降下 していった液は熱交換器23において高圧塔の窒素と熱交換して蒸発し、 塔内の上昇ガスとなる。低圧塔24の底部液溜めの上部より製品酸素ガ 5 ス59、頂部より製品窒素ガス57、途中の段より不純窒素ガス58が 低圧塔24において精留分離され、外部に排出される。また、低圧塔2 4の中間段よりアルゴンをわずかに含んだ酸素ガスが挿出され、54を 通して粗アルゴン塔25の底部に送られる。粗アルゴン塔25を上昇し たガスは凝縮器26において液体空気と熱交換して凝縮し、塔内の還流 10 液となる。上昇ガスの一部は粗アルゴンガスとして61を通してアルゴ ン精製工程へ送られる。粗アルゴン塔25内を降下していった液は底部 より55を介して低圧塔24に戻される。こうした塔槽類及び連絡配管 は、保冷槽62内にパーライトと呼ばれる保冷材を充填し設置される。 精留要素としての気液接触用の規則充填物の適用は高圧塔22,低圧塔 15 24および粗アルゴン塔25の何れにおいても可能であるが、本実施例 では各々の塔に規則充填物20が内蔵されている。また、本発明の液体 分配装置11は液が流入するあるいは合流する各々の塔に内蔵されてお り、特に上塔24においてはプロセス上から、精留領域が5個に分割さ れているために5個の液体分配装置11が設けられている。本発明の液 20 体分配装置の高さは従来例の約半分(約1m)であるから、上塔の高さ を約5m低く押さえることができる。工業的規模の空気分離装置の上塔 の高さは30m~40m程度であるから、精留塔の高さの低減に大きな 効果がある。さらに粗アルゴン塔25の場合、精留に必要な理論段数は 40から最大200段に達する。空気分離装置においては、気液接触用 25

15

規則充填物のHETP、すなわち理論段当りの高さは公知のもので20 0ミリメートル前後である。理論段を200段設ける場合、充填物の高 さは40メートルに達するため、従来のコレクタと液分配装置の代りに 本発明による液分配装置を適用することは、精留塔の高さ縮減に大きな 効果がある。さらに、配管材の物量縮減及び保冷槽の高さ縮小により、 空気分離装置全体の小形化に大きな効果がある。

以上述べたように、本発明によれば、従来の装置の欠点を回避でき、 液体の分散性を向上させるととに、小形な液体分配装置を提供できる効果がある。その結果、充填物を内蔵した充填塔の小形を達成できる効果 がある。さらに、本実施例の充填塔を空気分離装置に具備することで、 装置の小形化及び低コスト化に寄与できる効果がある。

#### 産業上の利用可能性

本発明によれば、上昇気体を通過させながら落下液体を収集・均一分散することができるので、空気分離装置のような気液接触装置(精留塔)に用いることができる。しかも、本発明によれば、落下液体の収集・均一分散を従来に比べ大幅に高さ低減された装置により行うことが可能なので、気液接触装置(精留塔)の高さを大きく低減することができる。

## 請求の範囲

- 1. 充填物の上方、あるいは充填物と充填物の中間に設けられ、上方から流下する液体を集めて下方の充填物に液体を分配するとともに、下方からの気体を上方に通過させる液体分配装置において、前記液体を受け止める液受板と、少なくとも1つの開口を設けた堰板を有する円形の液受皿と、前記液受皿の少なくとも1つの開口部から流下する液体を捕集し、液体を分配する底部に孔を有する第1の液分配箱と、前記第1の液分配箱の下方に設けられた多数の孔を底部に有する第2の液分配箱を複数具備したことを特徴とする液体分配装置。
- 2. 前記液受皿の開口部、前記第1の液分配箱,前記第2の液分配箱の 液体流入部分に少なくとも1つの緩衝板を設けたことを特徴とする請求 の範囲第1項記載の液体分配装置。
  - 3. 前記緩衝板は多孔板あるいは金網から成ることを特徴とする請求の範囲第2項記載の液体分配装置。
- 15 4. 流下する液体が前記円形の液受皿の外周に導くように、前記受板が 傾斜していることを特徴とする請求の範囲第1項から第3項のいずれか 記載の液体分配装置。
  - 5. 前記円形の液受皿に設けられた少なくとも1つの開口部が中央に設けられ、前記開口部の両側に複数の堰板を有することを特徴とする請求の範囲第1項および第4項のいずれか記載の液体分配装置。
  - 6. 前記第1の液分配箱と前記第2の液分配箱がそれぞれ矩形であることを特徴とする請求の範囲第1項から第5項のいずれか記載の液体分配装置。

20

れか記載の液体分配装置。

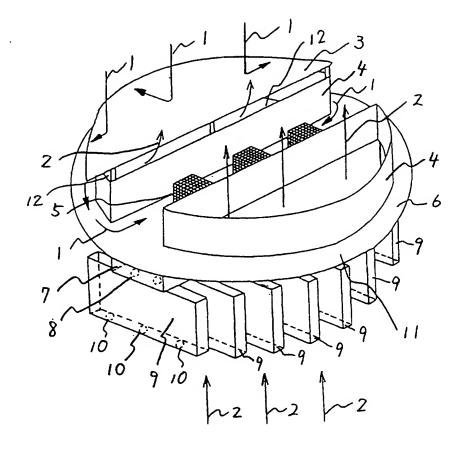
- 8. 前記第1の液分配箱が矩形であり、前記第2の液分配箱が複数のチューブで構成されたことを特徴とする請求の範囲第1項から第5項のいずれか記載の液体分配装置。
- 5 9. 前記第1の液分配箱が下方からの気体を上方に通過させるための複数の開口を有する環状の液分配箱から構成され、前記第2の液分配箱が 矩形であることを特徴とする請求の範囲第1項から第5項のいずれか記載の液体分配装置。
- 10.少なくとも1つの液成分を分離するための精留塔であって、前記 精留塔が上昇流である気体と下降流である液体との10間で、充填物を介 して気液接触を行う精留塔において、請求の範囲第1項から第9項のい ずれかに記載された液体分配装置が前記精留塔に少なくとも1つ具備さ れていることを特徴とする充填塔。
- 11.請求の範囲第10項に記載された充填塔から成る塔を少なくとも 15 具備することを特徴とする空気分離装置。
  - 12. 高圧塔と低圧塔から成る複式精留塔とアルゴンを精留するアルゴン塔を具備した空気分離装置において、前記低圧塔と前記アルゴン塔が請求の範囲第10項に記載された充填塔から構成されたことを特徴とする空気分離装置。
- 20 13. 高圧塔と低圧塔から成る複式精留塔とアルゴンを精留するアルゴ ン塔を具備した空気分離装置において、前記高圧塔と低圧塔ならびに前 記アルゴン塔が請求の範囲第10項に記載された充填塔から構成された ことを特徴とする空気分離装置。
- 14. 上方から流下する液体を集めて下方に分配するに際し、液受板に 25 より前記液体を受け止め、少なくとも1つの開口を設けた堰板を有する

円形の液受皿の外周縁部に受け止めた液体を導き、この液体を上記液受皿の外周縁部から上記少なくとも1つの開口に導き、底部に孔を有する第1の液分配箱により上記少なくとも1つの開口部から流下する液体を捕集し、上記第1の液分配箱の孔から液体を、多数の孔を底部に有する第2の液分配箱に分配し、第2の液分配箱の多数の孔から液分散を行うことを特徴とする液体分配方法。

15. 上記少なくとも1つの開口を上記液受皿の中央部に設けることを特徴とする請求の範囲第14項記載の液体分配方法。

1/9

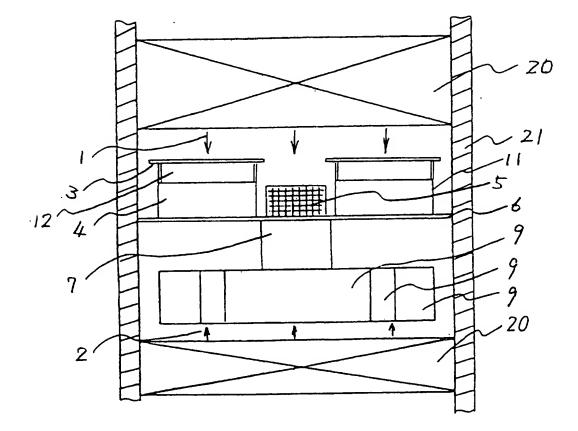
第 1 図



BNSDOCID: <WO\_\_\_\_\_9628232A1\_1\_>

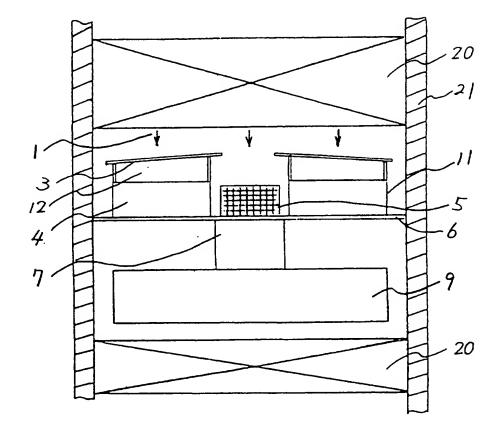
2/9

第 2 図



3/9

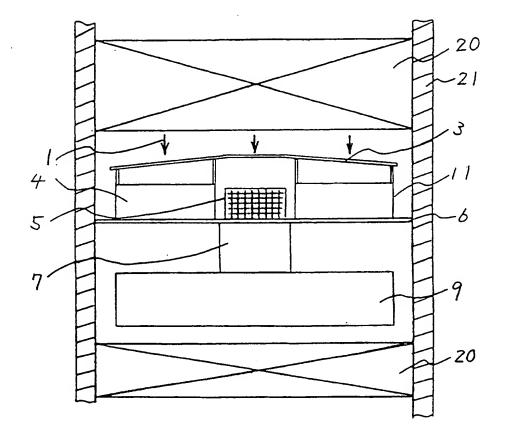
第 3 図



BNSDOCID: <WO\_\_\_\_\_9628232A1\_I\_>

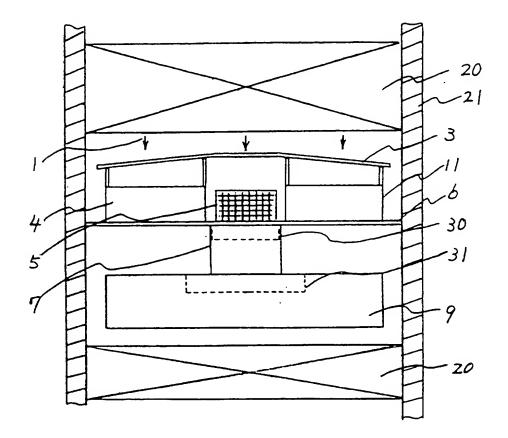
4/9

第 4 図



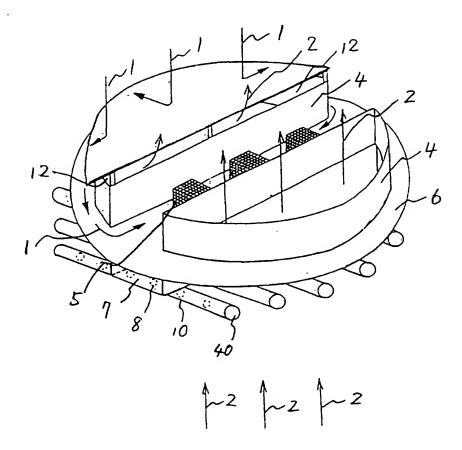
5/9

第 5 図



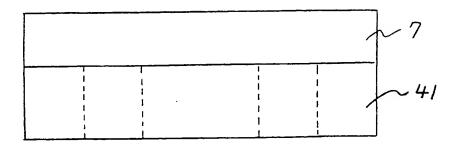
6/9

第 6 図

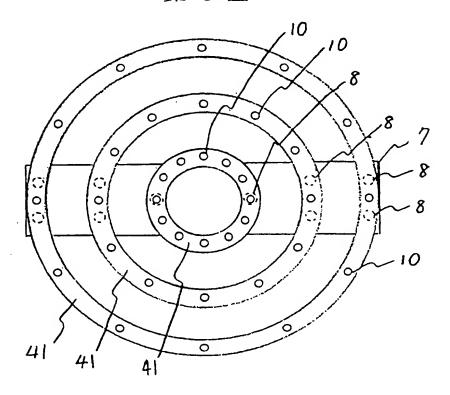


7/9

第 7 図

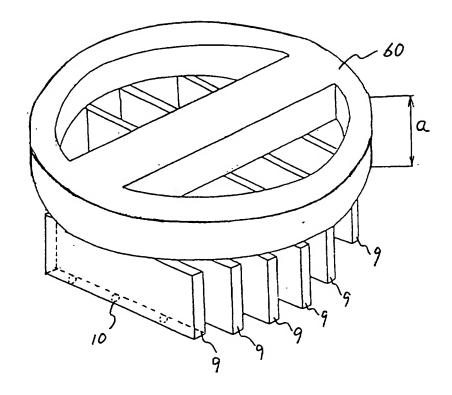


第 8 図



8/9

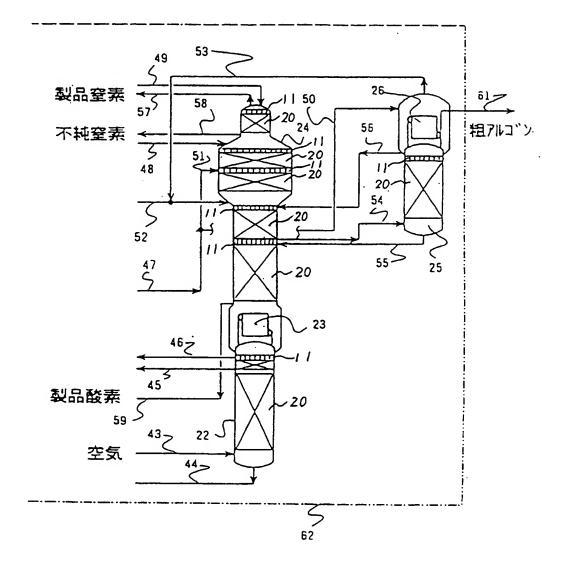
第 9 図



BNSDOCID: <WO\_\_\_\_\_9628232A1\_I\_>

9/9

第 1 0 図



## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP95/00428

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER					
	. Cl <sup>6</sup> B01D3/32				
According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC					
	LDS SEARCHED				
	ocumentation searched (classification system followed	by classification symbols)			
Int	. Cl <sup>6</sup> B01D3/32				
Documentat	ion reached other than minimum decuments of the state				
JIES	tion searched other than minimum documentation to the Suyo Shinan Koho	1950 - 1994	ne fields searched		
Koka	ai Jitsuyo Shinan Koho	1977 - 1994			
Electronic d	ata base consulted during the international search (name	of data base and, where practicable, search t	erms used)		
			·		
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		·····		
	<del>                                      </del>				
Category*	Citation of document, with indication, where		Relevant to claim No.		
Y	JP, 6-285323, A (Nippon S	anso Corp.),	1 - 15		
	October 11, 1994 (11. 10.	94) (Family: none)			
Y	JP, 5-184804, A (Nippon K	agaku Kikai Seizo	1 - 15		
	K.K.),				
	July 27, 1993 (27. 07. 93)	)(Family: none)			
Y	JP, 1-22303, A (Glitsch,	Inc.),	1 - 15		
ļ	January 25, 1989 (25. 01.	89)			
	& US, 4729857, A & BR, 880 & CN, 8802562, A & CA, 13	02001, A			
	& EP, 289201, B1 & DE, 388	32789, G			
	& ES, 2042736, T3 & KR, 9	312026, B1			
Y	Microfilm of the specifica	ation and drawings	2 2		
_	annexed to the written app	plication of Japanese	2 - 3		
	Utility Model Application	No. 81691/1979			
	(Laid-open No. 204/1981) (Manuary 6, 1981 (06. 01. 8	Nagaoka Kinko K.K.),			
]	(Family: none)	,			
Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.					
•	categories of cited documents:	"T" later document published after the intern	national filing date or priority		
"A" document to be of	at defining the general state of the art which is not considered particular relevance	date and not in conflict with the applic the principle or theory underlying the i	ation but cited to understand		
"E" earlier de 'L" documen	ocument but published on or after the international filing date	"X" document of particular relevance; the considered novel or cannot be considered.	claimed invention cannot be		
CITED TO	at which may throw doubts on priority claim(s) or which is establish the publication date of another citation or other	step when the document is taken alone			
O" documen	special reason (as specified)  "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is				
	combined with one or more other such documents, such combination				
the priority date claimed "&" document member of the same patent family					
Date of the actual completion of the international search  Date of mailing of the international search report					
June	13, 1995 (13. 06. 95)	July 4, 1995 (04.	07. 95)		
Name and ma	ame and mailing address of the ISA/ Authorized officer				
Japanese Patent Office					
Facsimile No.  Telephone No.					
2077		1 4 0 public 1 10.			

BNSDOCID: <WO\_\_\_\_\_9628232A1\_l\_> ond sheet) (July 1992)

#### 国際調査報告

国際出願書号 PCT/JP

95/00428

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. C. B01D3/32

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. C. B01D3/32

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報

1950-1994年

日本国公開実用新案公報

1977-1994年

国際調査で使用した電子データベース(データベースの名称、調査に使用した用語)

#### C. 関連すると認められる文献

引用文 <b>献</b> の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
Y	JP, 6-285323, A(日本酸素株式会社), 11. 10月. 1994(11. 10. 94)(ファミリーなし)	1-15
Y	JP, 5-184804, A(日本化学機械製造株式会社), 27. 7月. 1993(27. 07. 93)(ファミリーなし)	1-15
Y	JP, 1-22303, A(グリッツ インコーボレイテド), 25. 1月. 1989(25. 01. 89) &US, 4729857, A&BB, 8802001, A	1-15

### ✓ C個の続きにも文献が列挙されている。

パテントファミリーに関する別紙を参照。

- \* 引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
- 「E」先行文献ではあるが、国際出願日以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日 若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
- 「〇」口頭による開示、使用、展示等に含及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日 の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と 矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のため に引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規 性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

**樺式PCT/ISA/210 (第2ページ) (1992年7月)** 

**国際出版書号 PCT/JP 95/00428** 

		5, 00458
C (続き). 引用文献の カテゴリーキ	関連すると認められる文献 引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
	&CN, 8802562, A&CA, 1311187, C &EP, 289201, B1&DE, 3882789, G &ES, 2042736, T3&KR, 9312026, B1	
Y	日本国実用新案登録出顧54-81691号(日本国実用新案登録出顧公開56-204号)の顧書に添付された明編書及び図面のマイクロフィルム(永岡金網株式会社),6.1月.1981(06.01.81)(ファミリーなし)	2-3

株式PCT/ISA/210 (第2ページの統合) (1992年7月)